

# ハイライトよねやま77

(財)ロータリー米山記念奨学会  
2006年7月12日発行

## 1. 寄付金速報 ~ 9年ぶりの寄付金増加！ご協力感謝いたします ~

2005-06年度の寄付金は約14億6千万円。前年度と比べ1.4%増、約2千万円の増加でした。普通寄付金が0.4%減、特別寄付金が2.1%増です。1996年度をピークに減少しつづけてきた寄付金が、9年ぶりに増加へと転じました。

一人当たりの平均寄付額は、第2590地区【神奈川県横浜市・川崎市】が26,245円で、11年間トップを守りました。ただ、2位の第2770地区【埼玉県南東部】も24,302円と、僅差に迫っています。また、第2730地区【鹿児島・宮崎】では、一人当たりの平均寄付額・寄付総額ともに、前年度からの伸び率が34地区の中で最大でした。

今回の嬉しい結果は、会員皆様が寄付増進に向けてご尽力いただきました結果です。心より厚く御礼申し上げます。新年度も引き続きご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

## 2. 理事会・評議員会開催報告

6月19日(月) 東京・新高輪プリンスホテルにて2005年度第2回の理事会・評議員会が開催されました。コペンハーゲンでの国際大会直後ということもあり、出席者数は例年より少なかったものの、全国から理事28人、監事2人、評議員48人の計78人が出席されました。

今回の理事会・評議員会の主な決定事項は、以下の通りです。

2007学年度奨学生採用数は800人(枠)

前年に引き続き、「奨学資金特別積立金を取り崩さず、寄付金収入に見合った採用数とする」方針を踏襲し、2007学年度の採用数を800人(枠)とする。各奨学金プログラムの採用数は右表の通り。

現地採用奨学金の第1期試行は2009年度採用まで継続

現地採用奨学金は、第1期試行が進行中であり、2007学年度にベトナムから2人を採用予定している。こうした新制度の評価には一定期間を要するため、第1期試行を2007年度採用から2009年度採用までとし、ベトナム・ホーチミン市を対象に継続する。

2007年度 奨学金種類と採用枠	採用枠
学部・修士・博士奨学金	796人枠
地区奨励奨学金 2人/枠採用可	
クラブ支援奨学金	
海外学友会推薦奨学金	2人
現地採用ロータリー米山奨学金 2005年度募集 2007年度採用	2人
合計	800人



そのほか、2006年度の事業計画と収支予算案、文部科学省の指摘事項を反映した寄付行為の一部変更案などが審議され、これらについても全員異義なく、原案通り承認されました。

今回の理事会・評議員会では、制度改編から1年を経たこともあり、奨学金制度への意見や提案が多く挙げられました。

## 台湾学友会主催シンポジウム 締め切り迫る！ 7月31日(月)まで

開催：2006年9月23日(土) 13:00~17:00  
会場：台北市内の国際会議場(同時通訳あり)  
登録料：8,000円(シンポジウム・懇親会参加費)

詳細情報やチラシ(PDF版)は当会 HP  
(<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>)  
へ今すぐアクセス！

**ツアーあります！** 添乗員付き、9/22~24の2泊3日で9万9,800円~(成田空港からの場合)  
詳細情報やチラシ(PDF版)は当会 HP(<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>)に今すぐアクセス！

### 3. 2006 年度新制度を検証するフォーラムを開催

理事会・評議員会終了後、フォーラム『2006 年度新制度を検証する』が開催されました。伊藤長英常務理事から「寄付金増進の課題」、坂下博康事務局長から「新制度が抱える課題」が報告された後、会場全体で意見交換が行われました。詳しくは、別紙『フォーラム 2006 年度新制度を検証する』開催報告をご覧ください。

#### 主な意見 寄付金増進面

- ・表彰品はそもそも不要 ・お金をかけず、センスの良いものを ・現実的には多くの会員は必要としている

#### 主な意見 制度面

- ・クラブ支援(CY)奨学金制度は、期限内で博士号が取得できないのは留年と同じで、支援に値しない
- ・CY は廃止した方が公明正大だが、真に優秀な学生には支援しつつきたい気持ちもあり、ジレンマがある
- ・割当数算出基準について、有資格者の多い地区への配慮を

### 4. 全国の学友会長と地区米山奨学委員長が初の合同セミナー

6 月 25 日(日)、東京・高輪プリンスホテルにて、海外を含む学友会会長と次期米山奨学委員長との合同セミナーが開催され、計 58 人が参加しました。

本セミナーの目的は、各学友会が抱える課題を、学友会会長同士、あるいはロータリアンとも共有しながら、いかに“魅力ある学友会”を作り上げるかを協議する点にあります。

基調講演では、国内で活発な学友会活動を展開している第 2780 地区【神奈川県横浜市・川崎市以外】の、杉崎一雄

米山奨学委員長と、金宇烈学友会会長から、地区との連携・協力の実例が紹介されました。さらに、台湾から駆けつけた陳思乾台湾学友会会長からは、現在社団法人として組織的に活動している内容やその歴史、9 月に開催されるシンポジウムなどが紹介されました。

その後、パネルディスカッションや全体討議では、各学友会の運営における悩みが次々に発言され、予定時間を超えて熱い討議がなされました。



学友会会長同士や米山奨学委員長が親交を深める

### 5. 現地採用奨学金、ベトナムで一次面接を実施！



6 月 28 日、ベトナム・ホーチミン人文社会科学大学で、現地採用奨学金の一次面接が行われました。

新聞公募による応募者 44 人に対して英語試験、小論文及び書類審査を行い、20 人の面接候補者を選抜しました。今回の面接は、近藤雅臣学務・学友委員長と、ハノイ市のタンロン技術学院院長を務める米山学友、フィン・ムイ博士の 2 人で行われ、10 人を選抜しました。近藤委員長は「現地採用の良さを実感した。今後、より多くの学生を採用できれば」と、手応えを語っていました。この 10 人を対象に 12 月までの半年間、現地で集中的な日本語教育を実施し、12 月の二次面接では最終合格者 2 人を選抜。2007 年に来日する予定です。(事務局長 坂下博康)



#### 『奨学生名簿』 廃止のお知らせ

毎年、冊子で配付していた地区別『奨学生名簿』は、本年度より各ガバナー事務所宛にデータで配信することになりました。奨学生の個人情報保護に留意のうえお取り扱いいただきますようお願いいたします。